いのちをはぐくむ瀬戸内海

生物多様性地方座談会 in 広島

趣旨

中国四国地方での生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた先進的な取組事例をご紹介いただき、取組を進める上での課題などの意見交換を行うものです。

本座談会を含めて全国８ブロックで開催される地方座談会の結果は、平成24年度を目途に行われる「生物多様性国家戦略」の改定にも反映させていく予定です。

プログラム

14:00 開会・挨拶

14:05 生物多様性を取り巻く昨今の状況について
環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室長　奥田　直久

14:25 各主体からの事例発表

中国新聞社報道部　記者　衣川　圭氏
「写真・動画企画『命のゆりかご』の取材で知った瀬戸内海の魅力と課題」

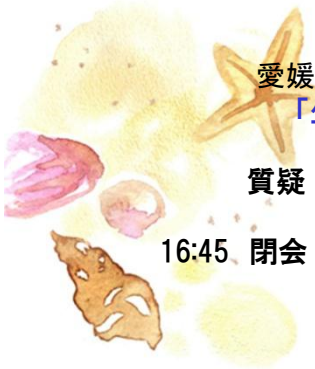
日本カブトガニを守る会笠岡支部　副支部長・環境カウンセラー　浅野　甘喜夫氏
「カブトガニの保護及びその繁殖地の自然環境保全を目指して」

広島県環境県民局自然環境課　主査　中川　司氏
「ミヤジマトンボの保護活動について」

海洋建設株式会社　水産環境研究所　所長　田中　丈裕氏
「“里海づくり“要素技術としての貝殻循環利用」

NPO法人自然と釣りのネットワーク　理事　藤本　正明氏
「ニホンアワサンゴを核にした海域公園指定と地域振興の取組について」

広島工業大学大学院　工学系研究科　環境学専攻　教授　上嶋　英機氏
「瀬戸内海の生物多様性を体感し守るために
～エコツーリズムの構築と活動を通して～ 」



愛媛県県民環境部環境局自然保護課　主任　重川　光正氏
「生物多様性えひめ戦略の策定について」

質疑

16:45 閉会

2011年11月26日（土）
TKP広島ｼﾃｨｾﾝﾀｰ
AICｵﾌｨｽ棟7階A-6会議室
時間：14:00～16:45（13:30受付開始）
主催：環境省中国四国地方環境事務所

事例発表者紹介

「写真・動画企画『命のゆりかご』の取材で知った瀬戸内海の魅力と課題」

中国新聞社報道部　　記者　衣川　圭氏

平成14年中国新聞社入社。生活文化グループ、三次支局を経て平成21年より報道部記者として勤務。平成22年より映像部の高橋洋史記者とともに、写真・動画企画「命のゆりかご～瀬戸内の多様な生態系」に携わる。

「カブトガニの保護及びその繁殖地の自然環境保全を目指して」

日本カブトガニを守る会笠岡支部　副支部長・環境カウンセラー

浅野　甘喜夫氏

昭和40年より笠岡市内中学校教諭（理科）として地域の自然の教材化に取り組み、自然観察、自然保護について指導を行う。その後、笠岡市カブトガニ保護少年団顧問としてカブトガニの研究と保護に関する指導に携わる。

昭和45年より笠岡市カブトガニを守る会結成に参加、専門委員としてカブトガニの保護対策に従事する。

平成15年、中学校教諭退職後、笠岡市立カブトガニ博物館館長に就任。現在は日本カブトガニを守る会笠岡支部副支部長としてカブトガニの保護活動に取り組む。

「ミヤジマトンボの保護活動について」

広島県環境県民局自然環境課　　主査　　中川　司氏

平成5年広島県入庁。森林保全課で、狩猟、希少種の保護、レッドデータブックの作成など野生生物行政を3年間担当する。以後、13年間で3つの地方機関に配属され、森林開発の許認可、狩猟、自然公園などの自然保護業務に従事する。

平成21年林業課森林計画グループへ配属、平成22年より自然環境課にて再び野生生物行政に携わる。

「“里海づくり“要素技術としての貝殻循環利用」

海洋建設株式会社　水産環境研究所長　　田中　丈裕氏

昭和28年生まれ。高知大学大学院農学研究科修士課程修了。高知県漁業協同組合連合会での勤務を経て、昭和54年岡山県庁入り。岡山県水産業改良普及所においてノリ・カキ養殖業等の現地指導に携わる他、海洋牧場やアマモ場再生技術の開発、漁場環境の整備および栽培漁業等に関する業務に従事。平成20～22年度まで岡山県農林水産部水産課　課長として勤務後、現在は海洋建設株式会社　水産環境研究所長を務める。

「ニホンアワサンゴを核にした海域公園指定と地域振興の取組について」

NPO法人自然と釣りのネットワーク　理事　　藤本　正明氏

昭和29年生まれ。昭和52年より山口県の小学校に勤務、平成23年3月に退職。その間、野外活動、特に青少年のキャンプやスキー指導に携わる（山口県石城山青少年宿泊訓練所にて勤務、山口県キャンプ協会　公認指導者、日本ネイチャーゲーム協会　指導員を経験）。

平成18年からスキューバダイビングを始め、平成21年から周防大島に生息するニホンアワサンゴの調査・保護活動に取り組む。

「瀬戸内海の生物多様性を体感し守るために ～エコツーリズムの構築と活動を通して～ 」

広島工業大学大学院　工学系研究科　環境学専攻　教授　　上嶋　英機氏

昭和19年福井県敦賀市に生まれる。昭和47年通商産業省工業技術院の国立研究所に入所（現在：産業技術総合研究所）。瀬戸内海の環境保全と修復の研究に従事。

平成17年より広島工業大学にて現職。平成22年「瀬戸内海エコツーリズム協議会」理事長、平成23年「生態系工学研究会」会長に就任。瀬戸内海のエコツーリズムと環境保護の活動に従事する。

「生物多様性えひめ戦略の策定について」

愛媛県県民環境部　環境局自然保護課　主任　　重川　光正氏

年齢35歳。臨床心理士の妻、4歳長女と1歳長男の4人家族。愛媛県伊予郡松前町に兼業農家の長男として生まれる。

名古屋大学大学院生命農学研究科修了。平成13年愛媛県庁入庁（農業職）。畜産（普及指導員4年・県庁2年）及び農政（植物防疫・鳥獣害対策担当　県庁4年）を担当し、本年自然保護課へ配属、生物多様性地域戦略の策定を担当する。 休日は実家の環境保全型農業を手伝いながら、子供と虫取り・魚取り・野鳥観察に励む。